

# 八幡平市



「ふる株」の愛称で親しまれている劇団「ふるさと発信株式会社」。  
 節目の第10回公演は、ホスピタルコメディの「見果てぬ夢」

## 節目の「ふる株」第10回公演を観劇し感激

安代地区の市民劇団「ふるさと発信株式会社」の第10回公演は12月2日、安代小学校体育館で開かれました。  
 今回の演目は「見果てぬ夢」。病院関係者や入院患者、その家族が集う病院の裏庭が舞台です。生きることをテーマに、病気や仕事の悩みを語り合いながら物語を展開。団員たちは、どのように病気に向き



妻に病気を打ち明けられずに思い悩む患者(写真右)

合っていくか、いつ来るかわからない人生の終わりをどう迎えるか—をユーモアを交えて演じました。  
 今回、出演者11人のうち初舞台は4人です。ベテラン団員の演技に引っ張られるかのように、はつらつとした演技を披露。公演に訪れた人たちは、手作りで温かみのあるステージに、たくさんの拍手を送りました。  
 同劇団は、平成11年に旧安代町の有志で結成。毎年12月に定期公演を開催しています。18年の第9回公演で、初めて安代地区を飛び出し、松尾地区で公演しました。

田頭小学校の5、6年生は12月1日、学校田で栽培した新米を道の駅にしねで販売しました。  
 児童たちは、総合学習の一環で5月に田植えを体験。稲刈り、脱穀と米作りを学習しました。愛情を込めて作った「いわてっこ」は一等米のお墨付き。1袋1.5キ入り500円で販売しました。用意した64袋は約40分で完売。収益金の一部はユニセフなどに寄付し、福祉に役立てられます。

## 自慢の新米が完売し笑顔は黄金色に輝く



田植えから脱穀まで体験した新米を販売する児童たち



そろいの衣装で息の合った踊りを披露する出演者たち

松尾地区婦人会の歳末助け合い演芸会は12月2日、松尾地区体育館で開かれました。  
 会場には、年の瀬の演芸会を楽しみにした約200人が訪れました。28組の出演者たちは、息を合わせて歌や踊りを披露。そろいの衣装で熱演する姿に会場から大きな拍手が送られました。この演芸会は、恵まれない人たちに義援金を送ろうと昭和53年から開催。収益金の一部は市社会福祉協議会に寄付されました。

## 助け合いの心を踊りに込め演芸会を開催